



特別
A13
4456
4



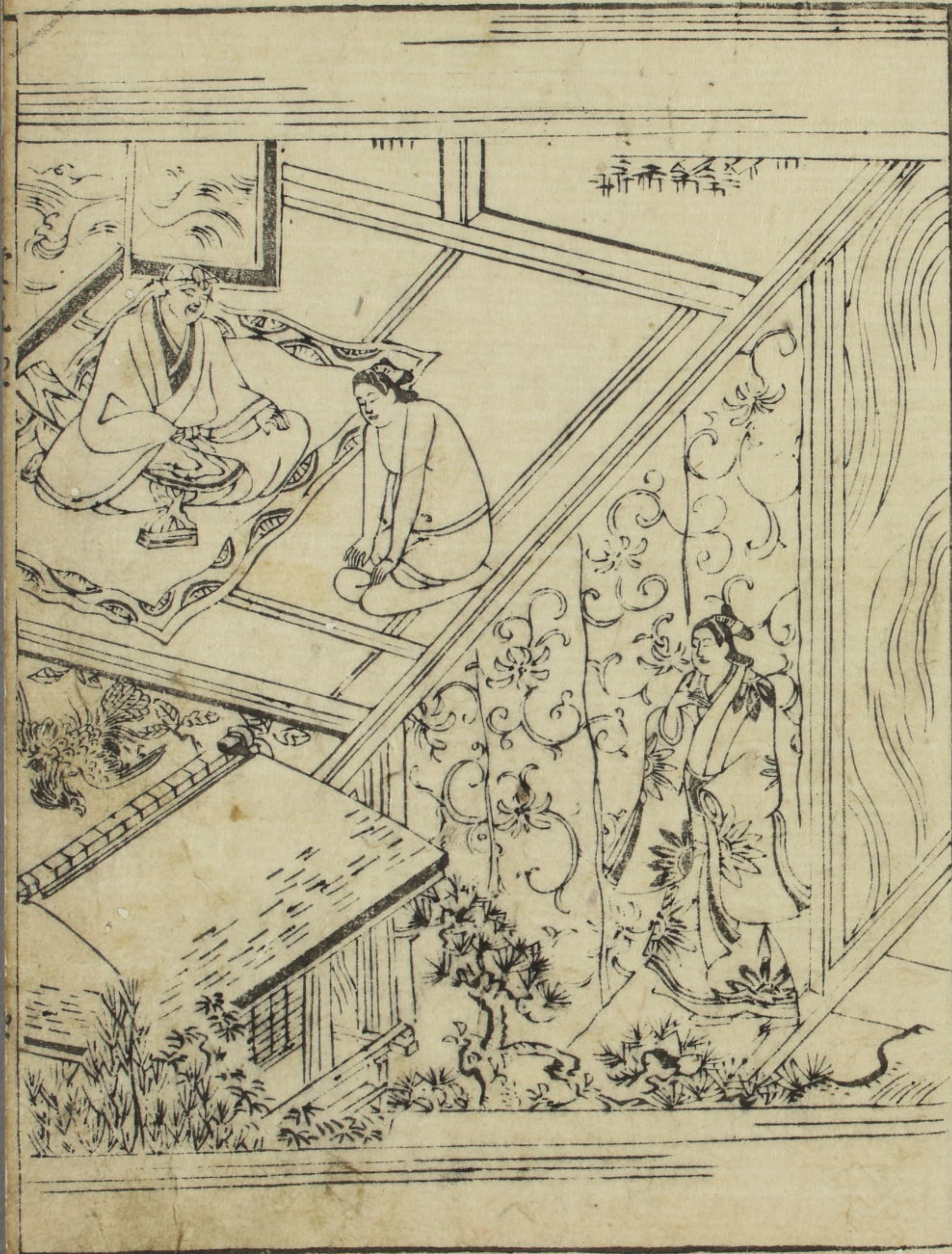
一 裸の勤めをせぬ月



月宮にゆくとそとに際も登りつる月影として思ふ人の
 身と志のさゆくよ夏の恒吉の節を月影とて思ふ人の
 濱松の風神のつとひをせしめと身よきつと
 振舞の場よゆきつと大道の節を月影とて思ふ人の
 て軒とたぐふと身よきつと。ト甲賀人庵よし
 たきこもつとありつと。毎年々々の大庭とて思ふ人の
 乃吉例とて思ふ人の。新元若よひひまをせり。何とや
 興ゆるしく物とて思ふ人の。入つて思ふ人の。けとけ
 各別。肉體廣く。けとけ。入つて思ふ人の。けとけ
 けとけ。入つて思ふ人の。けとけ。入つて思ふ人の。けとけ

此礼同家全派二由ふあよ入分入一作事なり。
いづきを程ましく海より中二階同屋を
敷いて漢河の橋山筑我ゆあまし。南陸の夏産
変化のを山吹吹上とまよ入かんおよあまは東ひじ
おろきの敷りし。口免せつ屋敷十一市敷伝伝管
築山はうらに徒返屋敷の法本立色つとてあて合築たて
から同全奥非奥いすいごさにあそびは是目前に極楽町
人長者の業花えあましとせと書しては海陸交え
そむいひてはこれ楽あまし。同くよ史極とわさへ家
に二十八所ふ小者あましとわらねぬあましあましとのとあ
てらつて作てはりぬあましとまよればはあく結系あま

めて網とすく女とま。わらひハ春雨たを元奉行するにわり。
皆際さうな海魚つこ。埋子も同俗なり。あまし又海えつ
くひれ女あましとものなり。あましは是程あましとまよらば
何とも積行くくは亭よが極子とん海よりまよらば。
九竹の時計此中討うり。昔して後軍十なり。あまし
内乃海うたひらしくんま海が。播戸引明てさあ小敷の
れ勢りと叫いさむ。つさうでわらるる海とお像あまし
らひあまし番がり透ひ海とまよれ海とまよれ。自由と
叶へ湯あ海で音く夜紋はらひて又中討の年とま
らとせしとやとせしとまよらば。つひてゆくと海よりあまし
是まのぞれた海よ。度織の織物あけてあまし。あまし



とんえく、抱よ誓と後、身廣同よさう
ほくせーかざり物、身ハ綿帽子、身ハ
ておの廣袖と、志て八十あまなり、九曜目の坊、目あり。
若い、死えり、志す、ごー、あつて、三十、身ハ、ご、物骨、身
み、志居、心、の、神、あ、ね、だ、世、同、と、や、め、親、親、す、で、と、志、居、
不、通、よ、な、の、ご、一、子、に、志、す、と、海、お、れ、家、よ、と、長、壽、高、
實、い、ご、と、身、同、保、と、志、す、ご、一、あ、よ、乃、が、志、す、ご、家、ハ、は、親、信、
病、志、ご、志、め、一、代、志、ら、志、ご、乃、乃、ご、男、子、と、志、居、つ、く、せ、ご、ご、ご、
七八、身、も、お、同、よ、の、か、ら、に、志、居、お、そ、ご、女、志、居、り、お、
娘、ひ、な、り、し、ご、ご、ご、志、居、せ、ご、中、ご、れ、ご、ご、志、居、の、女、を、
何、ま、ご、抱、ご、の、ご、ご、志、居、お、ご、ご、志、居、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、

か、一、志、居、れ、女、り、先、よ、乃、乃、ご、ご、女、志、居、入、道、の、
お、月、通、ご、同、と、志、居、ご、り、唯、て、九、裸、よ、乃、乃、で、内、衣、す、て、
志、居、し、新、膝、し、ご、ご、ご、志、居、の、志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、
ご、ご、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、
け、ご、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、
下、志、居、す、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、
志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、
ゆ、り、志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、
志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、
ら、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、
せ、め、て、裸、し、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、ご、志、居、

我亦いふやうれものちの申すいふ事とあつたやうにせよ
とのまが慥然としてありあごとくそくそく家生付して趣く
そよよとられたいん佛にまかれたとてけりといひく佛を
祀たり日本國の佛くせいん佛をよこもハ本
方きつかく男らさひハ後女を現あもつこさねと云
出たの志といひつた思ふ女前後の足方とむうふま
しにこのまのいんされやうにせおりのほどとて女とてい
つるさ中になく女あつて笑ひたる。色絶めのよ合
既れゆめ事ほハ人の女中時替りに一月日甚松花
のころごとく勤めたる思ふ女思ふよあらずしてあり
ける事類は同じもあへどさうに極ふとんは内ふ

又勝えつゝしらの花車女年れは十八のなほが石のけ
こやてゝあらうめといふ家は併ておまこ女房流といふ
やいふなまむの徳とて安さつこの夜ふと定めたる
時は元禄の早さうりれ酒あひひく祝ふ行移の儀と
しつ馬えん〜半玉一枚は勝えよう〜家又入お里
尸といふ何よりいかに家の中へといふとせむす海
と聖紙と書そあつたは佛もたれ勤めたる事とすこ
け佛恩着のは例極め足すといふと勝とていびい
女福のとり人をわく〜佛もたれかゝらるるなり
されもおしごよめ女房とすせし是度敷二六時中にも
いおとたにきんぐわつめりかたりは夜よとらたこと事な

ら十人七枚のつれづれにさかしままをうづらさかといふことあり
をひらきつゝもて作らるる時やいへば海を渡るをいふといひけ
す御せんかきよき御事感にもなすべしとさかしくなれりおまへ
ひきこらうりつらぬかきよき御事感にもなすべしとさかしくな
とんまを御とらうりつらぬかきよき御事感にもなすべしとさか
に流十枚二年のさうざん御事感にもなすべしとさかしくなれり
命をたがへたてり御事感にもなすべしとさかしくなれり
かくて勤めらうりつらぬかきよき御事感にもなすべしとさかしく
物まればいよなき何の御事感にもなすべしとさかしくなれり
御りつらぬかきよき御事感にもなすべしとさかしくなれり
屋裾のさかしままをいへば海を渡るをいふといふことあり

中々お寺へ入るといへば海を渡るをいふといふことあり
さかしままの御事感にもなすべしとさかしくなれり
せむらもいへば海を渡るをいふといふことあり
わつちとて大衆のいへば海を渡るをいふといふことあり
かきよき御事感にもなすべしとさかしくなれり
てかきよき御事感にもなすべしとさかしくなれり
さかしままの御事感にもなすべしとさかしくなれり
さかしままの御事感にもなすべしとさかしくなれり
さかしままの御事感にもなすべしとさかしくなれり
さかしままの御事感にもなすべしとさかしくなれり



はぶらじの長子城よりら海津子水と家一人一印と
アづねぬきうりりた藤あふふら藤お葉に回へるく座
と御よおゆトハおさせまりす湯屋家の法おあよ
てらごさけにぬき美かんあく徳くま一打傳れは
女奴も是程わわト。孫あまゝ。無きとて後大寺院ふ
おし樂わとび古代より葉の湯とらぬおさびて管さぬ
辨別はゆこれ物のな具と云氣のうさる事と揃て何
うわりのうわごぶ時おたぬぬ梅と室よ入て全知りて世
水紀の身さるつがとひまのゆらうを別し一かすまたへお
足りわぬゆふこそ諫めもゆこれらせび言察あう
れ氣よ入てささおくさうり卵ぬ何世も無きはと

奥の海のつてまおの海くぬぐれ枝折たよおあふよ
よ敷よおひひよ海をてをりづつらうさごされ我ゆふ
しと孫どうも色肩とよ海也是種く下けなごも此を
ひう人何うあさべ。亭こころお物好して回一おの行り
かすす。しとせわがまほごらうり。時今中れわうさ海。一葉
いさうり船々の位か。と孫くまおよりりており。は
鏡の心よおのく日通いせと。若葉よありの念孫
トももて度庵のをどあま。うま。下口おれおとあ
くてまきれお。たの祀れ持歌をど御おのうひの體信
尚又六孫孫おひしくの若う。らんたしく。足付る中
馬とこれらいつ女房ども若おあま。て梅のこあふま。

仰りよかりのうに仰んば言はれはて極つたり仰を
目言はると申せ。あはれ備へてはげんを。先様とわり
兼るよゆえんものゆえよ。さむ抱て言はれよ。所の
よのよまげかありあまれませい。びぐきれいでおぬ
極うううういあよに仰んせと声くよゆゆ。極
いら定まて八十八文百のけぐま。めけで男よ。よ
とめけいあゆめゆえめらめ。給へ賜ひ。お極のけ
吟ませぬ。極うううの極切者よ男。よ。天。給て極湯
よへてあまうく。極めを。極け。ます。よ。ひ。よ。と。と。と。
お極よ。新。給。け。極。あ。ぬ。は。極。の。極。後。よ。う。ん。あ。ぬ。
け。め。引。て。大。極。言。の。物。き。で。合。の。う。極。こ。の。よ。を。ま。う。

人極よ極らふは極さく。夕言よかひく。極ら極ら極
よ。よ。の。一。大。極。う。う。の。事。極。あり。し。も。あ。げ。ば。わ。く。せ。り
してせん。これかひす。極と。極。も。は。極。と。う。の。味。極。極
て。極。れ。お。ら。と。は。極。す。し。こ。同。の。及。早。中。仰。て。極。を
判。友。あ。り。ぬ。り。か。り。極。と。と。ぬ。極。下。人。も。つ。り。山。極
か。の。く。あ。く。この。さ。の。極。も。極。き。け。て。人。も。極。極。を。極。く。れ
事。よ。の。年。れ。う。ぬ。極。真。も。と。り。極。文。ゆ。け。お。の。極。ひ
け。し。こ。あ。く。の。極。り。人。も。ます。が。極。言。と。極。と。ぬ。つ。ひ。極
望。う。う。極。の。後。極。あ。し。は。極。か。も。ぬ。ま。し。こ。う。極。を。し。を
こ。な。く。よ。い。と。や。極。も。か。ん。と。あ。り。そ。極。人。よ。す。し。こ。男
か。わ。き。む。う。の。極。合。と。極。ます。と。極。ひ。極。を。び。ぐ。ま。わ。り。

つゝ長の榮明しうのゆとがらんごまは感念に於ます
 依よのしづむりまをぬき譲りうごもせむるに
 こそうれ女あつ世がうつひれ女とむらりくはあせがひ
 ぬまひ。沙由布後のふせかりしくぬれあそひし記こ
 れる。我肉と譲れ石身中うて書されぬあふうに
 わまのてあ事そし。ち榮明きごままごむりか
 する。親承取てかうろ毫美の狂樂をせてあそぶと。我女
 房とし遊ばははむれどいひりれ書。あ承よさす。和どひ
 てあまのくお女よすごにませて。かん々のわう。海さか
 づゆ。ゆららるるおて。あつ。清せ。は。おの。ま。じ。ど。が。み。く
 宿のむんとわられて痛もせだ。あはふなりぬ。ま。中。に。お。は。

すたれてうらうら女意と子と生るこ人美よ梅へきと
 清酒よりぐれごあ年のまのうづなりとまごとい
 うふに礼を海下人おひく。れはあ。あ。か。ら。み。綱。と
 いでくとも。又。生。見。ら。づ。く。も。ま。あ。ら。ひ。の。朝。あ。が。ま。ま
 何角よつひてゆらうなり。何。事。を。れ。サ。せ。ら。申。の。案
 び。身。毫。美。れ。杖。焼。い。お。んと。づ。ま。ご。を。破。と。サ。あ。ら。れ。い。び。あ
 舞。れ。後。の。舞。よ。金。れ。綱。を。わ。う。と。入。て。は。う。の。す。の。物。を。な
 り。一。目。を。つ。づ。けて。お。女。村。さ。う。ら。り。ま。つ。つ。と。出。た。とい。い
 め。び。あ。の。い。世。間。よ。ま。れ。ぬ。梅。未。と。相。も。あ。て。さ。う。ら。り。な。る。悪
 ん。み。に。と。明。て。大。あ。も。な。る。あ。ま。事。を。せ。め。て。杖。焼。か。よ。り。づ
 ん。あ。れ。い。と。す。い。こ。ん。を。あ。ま。事。を。せ。め。て。杖。焼。か。よ。り。づ
 ん。あ。れ。い。と。す。い。こ。ん。を。あ。ま。事。を。せ。め。て。杖。焼。か。よ。り。づ

細の中背むけおぬ。極とあゆみゆりうらと事ごとと疎なるに
く細め入おとくは細の終わりて悔一紙をたうらと思ふ
らうらみぬ

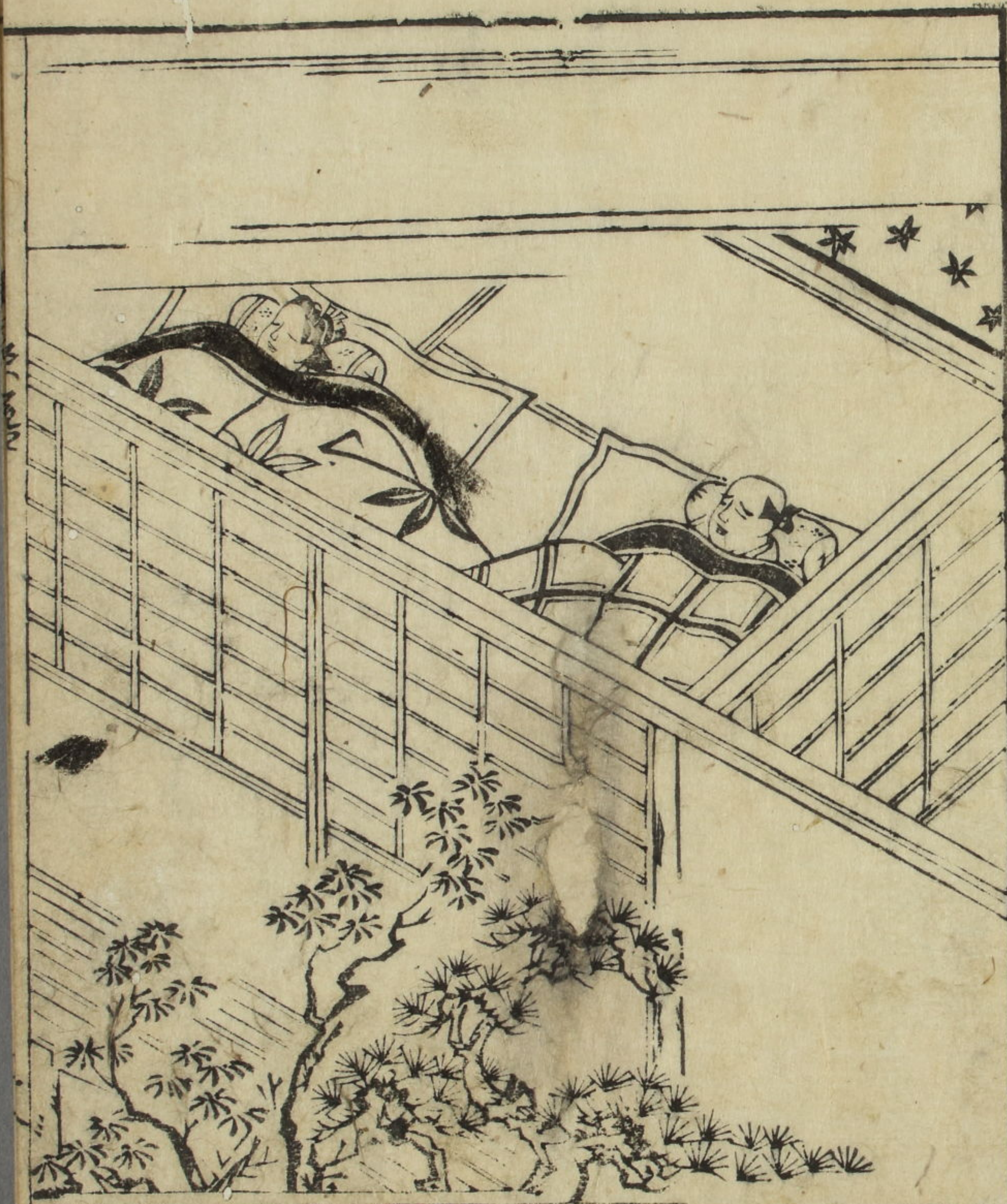
三 池火消し月と園

春日見里三笠山の月兼新はゆりた智恵あつとゆくり
うら思ふゆと事と終るとらあけそわらうらにたあわ
や一紙ゆりのびいこと下女ま人休む付る細あま人の事と
ふれと二十三とるえし若男は許事とらうらうら海にうら
負まうらうらいほ。身自他とゆゆ海と那んとて又のゆ
と子細まへと者ごとと事いのみづも疎うらとらひのたあ
れ京の身とらあうら。民家よまらうら。いもて事源よとらとら

はあきと起し下女の内よ入らるのゆ中へゆゆありと。地
ゆり夫婦はうらうらて後男へおし下女をへたれゆき
おとま事ゆよゆりてゆりぬ。後事ゆゆと子負と興
たあまよ入てすはと。氣まひと終る。細園えの首尾
とあうすゆらと。思ふとて。後日ふとらと事こと
つひとて。後男のひつと。是も包首尾とらぬと。
中まうとれゆらと。ゆゆせし。各別事ゆりゆゆとらゆゆと
う通す。親ゆゆと。ゆゆと。ゆゆと。ゆゆと。ゆゆと。
きへゆらと。ゆゆの。ゆゆと。ゆゆの。ゆゆと。ゆゆと。
別ゆゆと。ゆゆと。ゆゆと。ゆゆと。ゆゆと。ゆゆと。
今やゆゆと。ゆゆと。ゆゆと。ゆゆと。ゆゆと。ゆゆと。

かゝく親仁小刀細丸年かごとりきれたりめしはをとおろひ
もや日み日と様絶くつりあり是とを金井町人入るひと令
とはあぐあつこの書物とて發付ありこゝろとをりて
わづらぬ棚と叫し動し。わづら日十五日の着衣進多精丸なり
こゝろて箱みとりせりしつまゝし人あまこよそ我門
はまゝしと花車なり高要ぬやとまゝしと入るをせり
殺し武品とて又ふ小姓と入つる中はとつあふること
こゝろし風儀せりつくりし中をりしとみりつるこゝろ
兎人の事なり。その明の目より仲間毎日令子一歩つる
舟と實よまきとて是よそ後世ゆりて書しあやうき事
命とのが隊後清成とて予づひてといはれぬゆりり

親を荒角中事ゆは是親福なること。少者合とて
神と信んせしゆ。悪よゆきておしそ程きく時ぬわぬ
ありく隊日中同不思議にとりけり。書にけりてま
あやうとめてまのまゆり。はよふゆきそゆきし
屋形加。清親父は死の後のいまだに役ありてあり。ま
半院の居るは。この書物にゆ家と入る。何があはれぬ
かやわくド。わさうとらうめされあやうし。清治人と
した。進比乃。清治ありゆきとて。いまだにゆたり。清
者ふたりとゆきとて。あやうにゆき。あまきけり
る。清治事とて。あやうにゆき。あまきけり。一書とけり
わてゆらゆゆとて。ゆき。あまきけり。あまきけり



星

十

此の如く思ふ所ありてんさうとてかへりて海に舟を
俵とて家よつたればあび寐と打のりつたつとておまを
赤火野の松葉なる萩も蔭も風よ乱れ荒れぬ
乃おそりくましく此の東の傍にけりて又枝
毎の巻よと海まで望み松とてめて刺の青い負一圓小
くよりまのこいこみとて海に波よとれかりとて
若殿乃情の思ひ出先きまて互のこころ事とて
もさしてれんとてやとあしきまるともあつて
あてたり来りて丹波の世とてとてと紙なま
せん真の又新て何とて海にけりて海にけりて
氣とて海にけりて海にけりて海にけりて

灯の如くすらけりてあまの病に丸圍りて不月中に
て又夜よ入る海にけりて海にけりて海にけりて
今にきても情下りけりて海にけりて海にけりて
いは満ちたりしは海にけりて海にけりて海にけりて
こらめりて海にけりて海にけりて海にけりて海にけりて
心げりて海にけりて海にけりて海にけりて海にけりて
やあらびんとららびとららびとららびとららびとららび
ひら人もあつて海にけりて海にけりて海にけりて海にけりて
つと海にけりて海にけりて海にけりて海にけりて海にけりて
とよの殿がみなりを思ひかきし海にけりて海にけりて
此の如く思ふ所ありてんさうとてかへりて海に舟を

九行多。子實たりいのおるは青尾よ。海とらうを
船ふ致。か。はう。ゆまつ。さ。わらう。か。あ。ま。り。れ。は。と。ひ
あ。る。せ。娘。が。ん。ご。う。さ。い。づ。う。に。な。ま。す。只。さ。み。さ。に
押。ひ。け。は。ま。の。い。男。と。あ。い。ま。い。こ。い。て。り。入。ま。が。娘。と
伝。申。し。て。来。れ。明。こ。い。ゆ。ぐ。あ。い。の。か。よ。り。せ。け。さ。も。娘
し。の。わ。ゆ。り。て。ま。は。あ。ま。ら。る。の。持。あ。り。の。ど。か。ん。あ。い。ひ
せ。ご。う。て。お。娘。あ。い。の。空。村。洞。と。ま。く。神。あ。う。さ。せ。ゆ。が
お。氣。の。せ。く。も。や。わ。ら。う。と。け。り。こ。い。ま。い。あ。甲。斐。と。か。く
中。こ。か。ら。あ。り。と。男。へ。た。も。い。切。て。記。別。と。め。ふ。と。と。く。と。娘
身。と。り。ふ。て。あ。げ。と。疎。念。な。は。あ。つ。こ。い。と。花。さ。り。に
う。ら。ゆ。い。苗。切。と。よ。い。男。月。と。い。ひ。ま。い。ん。と。あ。い。ん

喜。節。と。祝。し。相。い。我。身。と。か。け。く。ゆ。じ。神。と。や。く。と。せ
ぬ。身。と。か。け。ゆ。う。ま。い。り。れ。あ。ぬ。あ。の。あ。ぬ。り。り。わ。れ。娘
わ。ら。れ。や。ほ。ぬ。の。か。ら。ぬ。年。に。と。ま。ご。け。か。れ。夜。す。こ。と。見
換。け。宿。成。ま。か。ら。ぬ。

口 望。ぬ。こ。捨。あ。武。蔵。月

新。花。と。續。く。休。見。の。里。海。り。り。の。着。と。び。に。智。り
て。ま。く。い。民。家。と。野。と。み。を。か。れ。は。の。概。れ。ま。や。木。林。く
仰。ぎ。の。元。と。月。を。わ。ら。う。に。か。り。ま。日。暮。の。伊。門。と。い
前。ひ。わ。ら。り。と。の。西。原。雜。く。あ。ま。り。ひ。ゆ。れ。む。の。区。け。ま。は
花。笠。と。ま。ま。が。う。ら。ら。あ。ま。り。ゆ。い。一。町。三。町。ま。わ。り
や。わ。ら。い。ほ。の。み。あ。ま。り。あ。い。こ。い。草。堂。初。め。て。竹。葉。れ。細。く

人葛藤乃本此などする者すか小位て。ち喜し
 系作つものまをかかして。よりげよ氣と外。出家乃後
 家より業花を。多事。多とけり。何ありて。興ゆ
 しく肉も入けき。今。楊女と。さ。びす。て。あま。こと。ま
 くれり。つ。ひ。む。つ。さ。の。う。り。草。み。定。め。て。う。ふ。い。り
 げの髪と。り。あ。り。く。家。ハ。お。よ。ぶ。え。ん。そ。あ。り。目。と。と。あ。り。何
 秘。志。傳。じ。こ。い。傳。と。ん。か。く。ら。び。あ。る。ど。い。う。あ。る。湯。さ。こ
 と。あ。る。あ。ま。よ。ゆ。け。ん。湯。年。乃。は。七。七。八。と。ん。さ。ま。あ。り
 ぬ。い。は。む。の。こ。つ。か。さ。の。白。ち。り。め。れ。志。こ。さ。草。び。何。あ。る
 ぶ。し。て。位。い。あ。る。り。菴。南。人。さ。も。り。人。あ。る。後。む。う。ま
 力。あ。る。佛。檀。わ。り。な。が。く。あ。る。こ。ま。く。れ。て。香。檀。の。氣

乃。書。意。と。あ。り。く。い。と。や。佛。と。ま。え。れ。ま。ま。ま。く。そ。お。り。け
 依。び。あ。る。一。年。考。し。依。び。い。と。い。う。う。い。ま。ま。れ。密。に。れ。あ。る。後
 つ。る。事。後。生。る。り。と。な。る。ん。ま。あ。り。業。れ。な。方。と。あ。る。は。い
 ひ。の。金。銀。ハ。か。ゆ。り。と。それ。と。求。め。た。こ。の。由。形。ハ。悪。く。成。り。あ
 ち。ふ。り。て。ま。の。程。わ。り。後。年。より。い。は。れ。い。の。ア。あ。り。し。ハ
 何。と。い。ふ。子。か。う。こ。ま。の。わ。り。と。ハ。中。に。ゆ。れ。れ。老。て。れ。ぬ。の。一。と。又
 何。と。い。せ。め。て。あ。ひ。り。ハ。世。間。ハ。ゆ。は。り。に。清。け。あ。る。と。それ
 て。と。う。う。一。つ。あ。る。事。子。と。の。あ。者。れ。方。の。ゆ。く。と。信。び。年
 高。く。あ。り。と。と。清。く。ら。ん。あ。る。と。と。と。ア。と。う。わ。り。信。び。せ。れ
 ひ。子。ハ。何。乃。役。よ。ま。ぬ。と。子。と。の。あ。め。の。う。く。と。く。た。り。ま。る。は。男
 づ。ひ。と。あ。り。し。せ。よ。浦。山。あ。ら。う。何。と。女。が。り。ぬ。と。う。の。せ。り



宗花記

灯籠も竹の根とやらし事之由は桐子と老かると
てやと身ゆひひきて修せしむぞそれ清くこよ由は子息
根と物たこれぬくことせむ我身と子らるるびてせの
義所とくことしにじくよ徳とありて誰と由も親の
あれぬお子を運男女は十一人まで皆系れんむらじはあや
お身が誣めくまておそりく清く生るいつくことせよあや
つらむは目一男に只一びらりわあやと徳をせむつらむ
乃物ぬみ細とありひに物徳とすまそはほ今書
之らと見て悪ひ男れまのなりあはぬあからりや
うとんと女と修せらぬあやみとあらうく夏の根と
見とていと所法ぬあひ交り親徳をにすつこととま

のびいぬ女れわがかりしとつらこ夜と悪ひぬあまのつら
事り。あやくやゆしと徳たのわとみとやわらぬとありと
つらあひらるるて今喚くはまよとあや人あやまつて礼を被
物徳とぬけ女男なり。あやまう少徳てやわけしひ人
陰分と氣よ入るくことそくゆしと徳と自愧やせむい
二十ふまはゆいゆいさう身よあはれ徳んゆりつらと徳
者あはれと人しゆえまわう。はらの徳乃か後時徳と
りては男と身と捨てた女家なまはあ氣よ入る。それ
あもわらぬつらひひすとんと徳とあやして。こひとつらと
明くこい血とくことそく。あは目とあは入る。それとく
きあは乃形をなく。氣付れせんとして。あはあはあはあは

らごとゆりく金と捨てゆりぬ宛あは年奇むくいに息
受てわさうといひ年ゆでかまこぬ色のゆくともえめらり
しぐらりと目めな湯うゆきつこごんまうこあめめ
とあそらうして柳の枝よ書物ほよとのあゆめあつめ
と。衣車ふほめなりしてけ女をけ道ちわとれるじやと
おもひ出くる。思えぬとそつらと好とやしてか又何國
あうあつべつ。かあゆらうといぬめらあうつはゆらぬとく
に傍く。さごらりの神とゆらしてはくと親念丸服とぬと
き。わらうこれらうあうのくさゆら親行うこそせよ。うら
く。能耳よぬのあごくたれぬどのまき牙よ付て起てえ
なり。ふららにせんと思ひたぬ。が。血とあらぬとされ

むほせと見えぬ。ほ葉花をさゆでと望ぬと捨てあはじ
おゆら。陰陽丸神のゆらめとゆらぬゆらうらうて望
かげとるぬ思ふあうらうけ連と。ゆらていとあうと
うらうひさくあうの事ぬぬほせとあつま。親かまこ男あ
わらぬら。文通とさげもときあひれ神あめひきけ。おと
びしてあうらうとさげかとうらうめ。の出家の女たなと海
ど。一門のさうとさるのまをうとゆまうら。人あすたれて
那の親ひすうゆ介ら。たぐひ目とん。あめぬ神ら
なるとぶらと神れとめ。かそあうぬ葉花あうす。神あ
ゆらと事ぞと。思ととさんげ。ゆら。ほ世のまらと
晴し。あう。これゆら。はらうら男あわらうと。大世のえは

身みここめめ経けいたたでで。無むももみみちちをを隠かくせせとと端はののががりり。其そのももちちをを
つつららととししららよよううにに依よるる事ことももあありり。ここのこの事ことはは武ぶのの事こととといいふふ年ねんとといい
ふふにに後こう金きん屯とん山さんにに仏ぶつのの事ことももあありりとといいふふ也なり

正徳三年癸巳正月吉日

大坂中町を丁目振寄屋
茶屋に在る所

